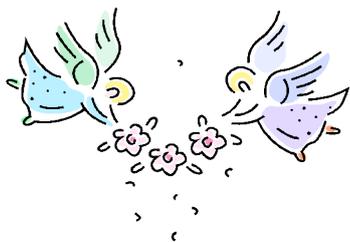


カトリック六甲教会 教会報

2010

1

No.457



あけましておめでとうございます！

主任司祭 松村 信也

「一年の計は、元旦にあり」と言われます。もうすでに新たな計画、新たな目標を立てられた方、まだこれからの方、否、立てない方なのでしょうか。

「今年こそ！きっと良い年になるように、目標を達成できますように」と願う反面、今の世の中、景気回復の兆しもなく、更に悪化の予想を聞かされるとき、その目標さえも脳裏からかき消されるような思いがします。

そんな思いを知りながらも、真新しい暦を目にするとき、何故か心の中まで真新しくなるような気がしてまた、「今年こそ！」という勇気を戴きます。

新しい年を祝うこと、それはただ単に一年の始まりを喜び祝うことではなく、今日まで過ごしてきた過去への精算と、来たる新しい年への期待に込められた願いを伴っているのです。

『できれば』と言うか。『信じる者には何でもできる。』と言われるイエスの言葉を、今日もう一度しっかりと心に刻みましょう。今の時代だからこそ具体的な目標を持って、明日を信じて生きる。そのためにイエスは、この世に来られ私たちの中にお生まれになったのではないですか。“イエスのご降誕”、それは私たち一人ひとりを救うため、私たち一人ひとりを神の国に導くためです。

「今までは、あなたがたは私の名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」イエスが、私たちに約束してくれたこの言葉を思い出して下さい。

たとえ希望のない社会、否、持てない社会であっても、たとえ前の年が悔いの残る年であっても、目の前に開けた年は、私たちのものです。良くするのも、悪くするのも私たち自身ではないでしょうか。

「恐れるな、私はあなたと共にいる。」さあ、共にいてくださる神にすべてを委ね、新たな年も、いつも“新たな命”を丹精に生きる力を戴けるよう、神に向かって共に歩み始めましょう。キリストによって、キリストと共に、キリストのうちに。

11月29日(日)待降節第一主日に、松浦悟郎司教様の六甲教会訪問がありました。司教様は11時のミサを司式され、その後イグナチオホールにて、「松浦司教を囲んで」と題した懇親会が開かれました。ミサ後の主催者からの参加の呼びかけも功を奏し、老若男女計60名ほどが集まりました。若者の参加者が予想以上に多かったことも印象的でした。

懇親会では、司教様を囲んで軽食をいただきながらの懇談が和やかな雰囲気の中、行われました。その後、司教様への質疑の時間がありました。質疑は、キリスト者としての家族のあり方、教会の宣教活動のあり方、他者との関わりについての悩み、司教様が司祭を志したきっかけなど多岐に及びました。司教様は、一つ一つの質問に丁寧に答えてくださいました。また、六甲教会において長年積み上げてきたさまざまな活動について、信徒から司教様にお伝えするよい機会にもなりました。

このように数年ごとに補佐司教様を囲んで直接の交流を行う機会があることは、小教区にとって意味のあることだと感じました。また、老若男女すべての世代が参加していたことから、信徒の関心の高さもうかがえました。数年に一度といわず、毎年開催してもよいのではないかと思います。

最後に、お忙しい中、六甲教会へ訪問してくださった松浦悟郎司教様に心より感謝申し上げます。

(三澤)

ごミサのあとの懇親会の席で司会者から「何か司教さまに質問はありませんか」と言われて、私は三番目に手を挙げました。まず質問というよりもせっかく来て下さった司教さまに最近の六甲教会の変革を詳しく知っていただきたいと思い、三年前に池長大司教さまから課題として頂いた「評議会規約の改定」が幾多の曲折と苦心の末やっと今年の3月にご承認いただいたこと、その過程で「宣教部」という部会が新設されたこと、部会の活動内容を明確化したことなどをご報告しました。松浦司教さまは直接のご担当ではなかったとおっしゃいましたので、簡単な経緯と承認された規約のコピーをお渡しして質問に替えました。

そのあと桐原さんが、「なぜ宣教部という名前の部会が無かったのかは、すべての部会が宣教・司牧を目的として活動していたので敢えて作る必要がなかったからである」と、以前に桐原さんが規約を作られた時のことを振り返って補足して下さいました。

お忙しい中を六甲教会に来て下さり、若者とテーブルを囲んで親しく和やかなひと時を過ごして下さいました松浦司教様に感謝するとともに、これからも私たちの宣教司牧活動を見守り、ご指導くださいますようお願いいたします。

(鈴木)

若者にも高齢者にも丁寧にお話される松浦司教様



行事報告

教会学校 クリスマスキャロリング (12月12日)

12月12日の午後、およそ40人の教会学校の子どもたちがJR六甲道駅の前でキャロリングをした。昨年は吹きすさぶ寒風に苦しめられたが、幸い今年は風もなく、暖かな日差しの中でのキャロリングになった。

駅を利用するたくさんの人たちの中には、子どもたちをちらっと見ただけで無視して通り過ぎて行く人も多かったが、「おや、なんだろう」という顔をして立ち止まり、子どもたちがクリスマスの歌を歌っているのだとわかるとにっこり微笑んで耳を傾ける人も多かった。そのほかに子どもたちの保護者もたくさん来ていたので、子どもたちのまわりに大きな人の輪ができた。

駅から出てくる人たちを見ていたとき、1人のおばあさんが目にとまった。大きく曲がった腰で、階段を一步一步ゆっくり下りてくる彼女の表情は、まるで今の暗い世相を反映したかのように陰しかった。ようやく階段を降り切ったところで一息つきながら、彼女もやはり「おやっ」という顔で子どもたちの方を見た。すると彼女の表情から見る見るうちに陰しさがとれてゆき、やがて輝くような微笑みが浮かんだ。あれほど劇的な表情の変化を、あまり見たことがない。

そんな様子を見ながら、わたしの心にも少しずつ静かな喜びが湧き上がってきた。子どもたちの歌声が、確かに人々の心に「神の愛」を運んでいると実感したせいかもしれない。子どもたちの歌声に込められた喜びがわたしの心にも深くしみこみ始めたということもあるだろう。年末の忙しさに閉じ込められた心が、御降誕の喜びに向かって少しずつ開かれていくのがわかった。

素直な喜びにあふれた子どもたちの歌声には、人の心の深い部分に愛を伝える不思議な力があるようだ。これほどの福音宣教は、そう他にないだろう。(片柳)

『ママ、キャロリング、きれいに歌うから絶対見に来てネ!!』と送る車の中で懇願され、『きれいに歌うから』と言った娘の言葉が不思議と心に響きました。例年に比べ暖かな中でのキャロリングで、色々なクリスマスソングを聞かせて頂きました。残念ながら二部は雨のため途中中止となってしまいましたが、子供達のクリスマスへの心のこもった歌声でいつもより温かな気持ちでクリスマスを迎えることができそうです。

(千原)



昨年の寒風の中でのクリスマスキャロリングとは違い、今年は12月にしては暖かな一日の中、道行く人々に子供達の歌声を届けることができました。急に雲ゆきが悪くなり雨が降り出し、二回めのキャロリングができなかったのは残念でしたが、足早な街の人々も足を止め下さり、きっと子供達も嬉しかったと思います。キャロルを聴くと、主のご降誕が近付いて来たんだなあと思いました。街の人々にも子供達にも主のお恵みがありますように。(尾崎)

突然の雨で少し短くなりましたが、昨年と違い暖かい日にキャロリングが行われました。一生懸命大きな声で歌う低学年、照れながらもしっかりと歌う高学年。全ての子供達の気持ちが伝わったのか、道行く人たちが微笑みながら足を止めて下さいました。イエスさまのお誕生日をお祝いする心を伝え、分かち合うことのできた、忘れられない良い時間となりました。このような素晴らしい機会を子供達にお与え下さいました全ての方々に深く感謝申し上げます。(近藤)

行事報告

∞∞∞∞∞∞ クリスマスコンサート (12月13日) ∞∞∞∞∞∞

昨年のクリスマスコンサートにご案内いただき、少数精鋭の美しく暖かみのある演奏にとっても感動し震えが止まりませんでした。ところが、何と一般参加が可能とお聞きし、今回は出演させていただく事ができました。

エリック先生の些事にはとらわれず、言葉の意味を大切にするご指導に深い感銘を受け、とても楽しく練習することが出来ました。ただ、12年のブランクには勝てず、気持ちばかり先走り、皆様の足を引っ張るばかりとなってしまう事は深くお詫び申し上げる次第です。しかし、京都、奈良からも旧友が集い、その一人は、終演後、涙目で震えながら非常に感動したと言って下さいました。こうして、感動の輪が広がっていくのならこれに勝る喜びはありません。 (B 磯貝)

「来たれ、エマヌエル」とカメラータ神戸の合唱が聖堂の後方からの入場で始まり、スペインのキャロル、ビバルディのグロリアから数曲演奏され、次いでゆりかごの会が加わってのベルギーのキャロル等に聖堂一杯の聴衆も盛り上がってきたところで第一部が終了。第二部に入り、メサイア室内アンサンブルのチェンバロ、オーボエ、ホルン、オルガン、また六甲教会混声合唱団、一般有志の方々も加わり総勢75名、エリック・コロンの指揮でヘンデルのメサイアが演奏されました。



このクリスマス・コンサートは9回目だそうで、女声は言わずもがな、蝶ネクタイ姿の男声は例年にも増して響き、そのハーモニーはすばらしく、歌っている方々の顔は輝き、喜びにあふれていた様子に感動しました。その余韻に浸って帰路思わず「ハレルヤ！」と歌っておりました。心のこもった演奏に感謝のひとつときでした。 梅原 (六甲教会)

今年も聖堂いっぱい、クリスマスコンサートにご来場頂きました皆様、また会場を提供して下さいました六甲教会に、出演者スタッフ一同篤くお礼申し上げます。ありがとうございました。

感謝のうちに メサイア実行委員会一同

行事報告

∞∞∞∞∞∞ 「第51回神戸市民クリスマス」(12月17日) ∞∞∞∞∞∞

12月17日の晩、神戸栄光教会をメイン会場として第51回神戸市民クリスマスが行われた。今年は木曜日の開催ということで参加者が減るのではないかとの心配もあったが、結果としては元町と北野坂から二手に分かれて行われたキャロリングに170名、栄光教会で行われた「祈りと祝福のとき」に400名の参加があった。



毎年のことだが、今年も市民クリスマスを支えたのは六甲教会の婦人会や聖歌愛好家の皆さんだった。総勢で50人は参加していただろう。前田さんの尽力で、ケーキの献品も83本に達した。

今年の「祈りと祝福のとき」は、子どもからのメッセージに耳を傾けながら祈るという趣旨で行われ、聖公会の與賀田光嗣執事が黙想を指導した。他に日本基督教団から2名の伝道師とわたしが壇上に立ったが、4人とも20代から30代の若手だった。

市民クリスマス終了後は、司式に立った教職者・聖職者4人がそれぞれの教会から合計30人ほどの若者たちを集め、超教派のクリスマス会を行った。六甲の青年会のメンバーの中には、聖公会の中高から日本基督教団の大学に進んだ若者などもおり、大いに打ち解けて話し合うことができた。昨年のクリスマスと今年の復活祭に続いて、これで3回目の集まりだった。今後も、このような交わりの場を継続的に設けていくことができればと思う。

(片柳)

行事報告

∞∞∞∞∞∞ 教会学校 クリスマス会 (12月19日) ∞∞∞∞∞∞

待降節最後の土曜日。いつもよりちょっとおめかししたこどもたちが、イグナチオホールに集まって来ました。

今日は教会学校のクリスマス会です。お友達に誘われてきたこどもは、今から何が始まるのか興味津々でまわりを見回しています。

「テゼの祈り」で幕を開けたクリスマス会。お御堂にキャンドルで明かりを灯し祈りを歌で奉げるといのは、みんなにとって初めての体験だったようです。その後はお馴染みの宝探しに、歌、サンタクロースの登場、リーダー劇といった内容に、こどもたちは身を乗り出して参加していました。

今回の宝探しの宝物は、小さなフィルムケースです。この中にはお菓子とまるでおみくじのように小さく丸めてある「み言葉」のしおりが入っており、かわいい羊のシールで封をしてあります。ある女の子はお菓子の方をリーダーに差し出してくれました。そのしおりは開けてみないの?と聞くと、「家に帰ってから一人で見てみる。」と目を輝かせていたのが印象的でした。

こどもたちは遊びと想像の天才です。どんな子もふとした時に体の内側から光を放つ瞬間があります。こどもたちの力ならば飾りつけられた金の紙星たちですら、ベツレヘムのあの夜空への架け橋にしてしまいます。

教会学校の主役はこどもたちです。六甲教会の宝物たちが育っていくその1ページにクリスマス会の思い出があるならば、こんなに嬉しいことはないように思います。これからも教会の皆様と協力して、この子たちの成長を見守っていければと思います。

(松島)



行事報告

∞∞∞∞∞∞ 中高生会 クリスマス会 (12月20日) ∞∞∞∞∞∞

12月20日に私たちはクリスマスチャリティーコンサートを行いました。十数人という例年に比べると少ない人数ではありましたが、リーダーやOBも加わり約1時間のあいだ聴きに来てくださった方々と一緒にとっても楽しい時間を過ごすことができました。

もともと中高生会が釜ヶ崎でクリスマスコンサートをするようになったのは、釜ヶ崎でのボランティア活動などに参加した中高生の『おじさんたちにクリスマスを楽しんでもらいたい』という思いからでした。普段、野宿生活をしているおじさんたちの楽しみはなんだろう、ど



うすればおじさんたちに楽しんでもらえるだろう、などをみんなで考え、教会でクリスマスチャリティーコンサートをひらいてその収益金を使って釜が崎でクリスマスコンサートをすることを決めました。毎年かかさず来てくれるおじさんや「今年はいつ来てくれるんやー」と連絡をくれるおじさんもいます。そんなおじさんたちと一緒にまた今年も楽しいひとときを過ごせるといいなと考えています。

聴きにきてくださったみなさま、支えてくださったみなさま、本当にありがとうございます！

中高生会リーダー 橋岡

行事報告

∞∞∞∞∞∞ 青年会 クリスマス会 (12月23日) ∞∞∞∞∞∞

今年も恒例のクリスマス会を行いました。今年の青年会のクリスマス会は様々な理由で普段会に参加できない青年にも多く参加していただきました。

またマミマリによるオペラプチコンサートや納涼の夕べ、六甲山ハイキング、広島練成会で撮影された思い出写真のスライドショーなどがあり、大変盛り上りました。恒例のプレゼント交換もユニークなプレゼントが多くあり大変良かったです。個人的に印象が強かったプレゼントは、黒猫の手形肩たたき、フレッシュゆず詰め合わせ（大きな本物の生ゆずですよ）、マザーテレサ 100周年記念硬貨（裏側の「I trust」と刻印されている文字が忘れられません）。その他にもスワロスキーのクリスタル十字架、紅茶、入浴剤 etc とすばらしかったです。都合で残念ながら参加できなかったメンバーは来年は是非参加してください。（筑田）



行事報告

∞∞∞∞∞∞ 主の降誕 夜半のミサ (12月24日) ∞∞∞∞∞∞

「子供のミサ」は例年より 30 分早い、16 時 30 分から始まった。ミサに先がけクラリネットの演奏や子供達のみ言葉の儀式が行われた。

ミサの中でも子ども達による「3 人の博士の寸劇」が行われ、楽しい雰囲気の中でミサは進行した。



大人向けのミサは、ミサの始まる 30 分前から混声合唱団と聖歌研究会によるクリスマスキャロルが歌われ、ミサに参列した人々はその歌声に耳を傾け、なごやかな雰囲気にも包まれながらミサに与ることができた。



行事報告

∞∞∞∞∞∞ 中高生会 釜ヶ崎コンサート (12月25日) ∞∞∞∞∞∞

釜ヶ崎の「ふるさとの家」で、今年も六甲教会の中高生会がクリスマス・コンサートを行った。もう 10 年以上続いている、中高生会の恒例行事だ。今年は、入れ替わり立ち替わりだったがおよそ 70 人くらいの労働者の皆さんが聴きにきてくださった。

インフルエンザの関係で多くの学校が 25 日まで授業を行ったため、参加した中高生の数は残念ながら去年の半分くらいだった。そこで、急遽リーダーたちやわたしも子どもたちと一緒に歌うことになった。中高生、大学生、大人による混声合唱団だ。

昨年は記録係としてもっぱら聴く方にまわっていたが、歌う側にまわるとずいぶん印象が違う。わたしたちが心をこめて歌えば歌うほど、労働者のみなさんもしっかり受け止めてくださるのがよく分かった。歌う側と聴く側の心が、互いに響き合っているようだった。

何曲目かに「バラが咲いた」を歌い終わったとき、1 人のおじさんが「ありがとう。今日は西成にもバラが咲いたみたいだよ」と言ってくれた。歌詞の通りそのバラが「心のバラ」となり、せめてこの年末年始だけでもおじさんたちの心の中に咲き続けてくれればと思う。

(片柳弘史：中高生会担当司祭)



各部だより

☞教会学校

2009年12月20日(日)～2010年1月8日(金)

冬休み

- 1月9日(土) 始業式&餅つき
1月10日(日) 子供と共に捧げるミサ
 ジーザスキッズ・クラス
16日(土) 通常
23日(土) 通常
24日(日) ミサ当番
30日(土) 通常(第1週がお休みでしたの
 でクラスがあります。)
2月6日(土) 通常
13日(土) 通常

☞青年会

1月10日(日) 教会新年会のため、定例会は
お休みにします。

- 1月24日(日)13:30 定例会(助任司祭室)
内容:「分かち合い」などを予定
※11時ミサ後、教会掃除当番にあたっている
ため、通常と開始時間が異なります。

☞社会活動部

2月5日(金)初金ミサ後 連絡会開催予定

《お知らせ》

【社会活動部より】

1/1(金)～1/5(火)10:30 シナピス神戸 越冬越年(東遊園地にて)

1/6(水)10:00 手芸の集い(第1・2会議室)

どなたでも参加ご自由です。

1/9(土)10:00 炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、配食やおじさん達のお話し相手だけでもOKです。

1/17(日)10:00 ミニ・バザー(イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品等の販売

1/21(木)14:00 ベタニアの集い(イグナチオホール)

聖体拝領式と茶話会

1/22(金)9:30 ともしび ケーキづくり(イグナチオホールお台所)

1/31(金)14:00 移動学習会(於・垂水教会聖堂)

講師:吉川康夫氏(フレンドリー代表)

【養成部より】

1/23(土)10:30 哲学講座(最終回) 於:信徒会館会議室

講師:奥村和滋教授(聖トマス大学)

2/6(土)10:00 祈りの道場 於:大聖堂

指導:英 隆一郎神父



みんなの広場

オーストラリアのクリスマスの花は白百合

オーストラリアではクリスマス・イブに向けて花屋さんは白百合一色となります。

白百合は純粹、謙遜、処女性、威厳などをあらわします。また、ローマ時代の神話ではジュピターの妻、ジュノーが息子のヘラクレスを育てているとき、お乳をこぼしてしまい、それが星の集団、ミルキーウェイ(天の川)となり、地球まで落ちたものが白百合となったとのことです。

白百合はイースタの時も聖処女マリアのシンボルとされています。

日本だったらどうしてもお葬式を思ってしまう。やはりところ変われば品変わるのでしょうか？



教育を「江戸」から考える

NHKラジオ第2放送の「こころを読む」に辻本雅史博士の表題の講座が放送中です。と言っても我が家のチューナーはなぜかAM放送が入らない。本屋のテキストで知りました。

通読して「天」や「自然」を「天地の創造主全能の父」に、「四書五経」を「福音書」の置き換えてみると、これは現今教会に在るべくして欠けていることではないかと思いました。日本経済新聞朝刊の「私の履歴書」に益川敏英博士の簡単な自伝が掲載されています。両方を読んで、人間は覚えていないこと、記憶にないことはできないものだと言うことを改めて思い起こしました。

いま、私たちは本来の自分で信仰を守り生きなければならない環境にあります。そのためには何時何所でも直ぐに取り出せる記憶がないと、迷うことになるほかなくなりそうです。

主は、言われました。「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気で暮らしなさい。」

ヨハネ三好榮之助



1月の予定

新年あけましておめでとうございます

日	曜	教会暦	教会行事
1	金	神の母聖マリア(祭日) 世界平和の日	0:00 7:00 11:00 ミサ
2	土	聖バジリオ 聖グレゴリオ(ナジアンズ)司教教会博士	
3	日	主の公現(祭日)	
9	土		14:30 教会学校始業式(もちつき大会)
10	日	主の洗礼	7:00 10:00 ミサ(10時ミサで成人式) 教会新年会 17:00 海星病院ミサ
11	月		10:00 一日黙想会
15	金		10:00 ミサ 婦人会新年会
17	日	年間第2主日	阪神淡路大震災の日(巡礼ウォーク) 7:00 10:00 ミサ 10時ミサ後 壮年会新年会 17:00 海星病院集会祭儀
18	月	キリスト教一致祈禱週間(25日まで)	14:00 三日月会ミサと例会
21	木		14:00 ベタニアの集い
23	土		10:30 哲学講座
24	日	年間第3主日	7:00 9:00 11:00 ミサ 17:00 海星病院集会祭儀
25	月	聖パウロの回心	11:00 ベビーとママの集い
26	火	聖テモテ 聖テトス司教	
28	木	聖トマス・アキナス司祭教会博士	
31	日	年間第4主日 カトリック児童福祉の日	7:00 9:00 11:00 ミサ 17:00 海星病院集会祭儀

編集員のつぶやき 皆さんはどのようなクリスマスを過ごされましたか？ 今回の教会報には教会のクリスマスの様子が届きました。子どもたちが大活躍でしたね。子ども達のように、まっすぐに神様の愛を伝えていくことができればよいのですが……。『しっかり、大人！』ですね。始まりました新しい年も、皆さまにとりましてかけがえのない良い年となりますように……。そして、今よりも少しでも平和でありますように……。 ★♡★

<p>教会報2月号の発行は1月31日(日)です。 編集会議は1月24日(日)です。 記事原稿は、1月17日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 松村信也 神父 編 集 広 報 部</p>
---	--